

平成 20 年度 第 3 回 鳥取市生活交通会議

議 事 要 旨

1 . 日 時 : 平成20年12月24日(金) 13:30~15:30

2 . 場 所 : 鳥取市役所 本庁舎 4 階 第 3 会議室

3 . 出席者 :

会 長 (学識経験者)	鳥取大学工学部社会開発システム工学科准教授	谷 本 圭 志
委 員 (住民・利用者代表)	市小学校 P T A 連合会	横 山 隆 雄
	市自治会連合会 (旧鳥取市, 国府町, 福部町)	小 原 保
	” (河原町, 用瀬町, 佐治町)	谷 上 學
	” (気高町, 鹿野町, 青谷町)	田 中 勝 昭
	市老人クラブ連合会 (旧鳥取市, 国府町, 福部町)	前 田 豊
	” (気高町, 鹿野町, 青谷町)	三 谷 忠 俊
	市連合婦人会	油 谷 都々江
(運送事業者)	日ノ丸自動車株式会社 取締役営業部長	中 村 芳 晴
		(代理: 稲村雄一)
	日本交通株式会社 常務取締役	澤 耕 司
	西日本旅客鉄道株式会社 鳥取鉄道部運輸課長	山 根 利 彰
		(代理: 吉澤美津男)
(運送事業者団体)	鳥取県ハイヤータクシー協会東部支部長	橋 本 貞 治
(運送事業者労組)	私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部 執行委員長	小 谷 実
(鳥取市)	福祉保健部長	木 下 公 弘
(中国運輸局)	鳥取運輸支局 運輸企画専門官	竺 原 要 四 郎

事務局 : 鳥取市都市整備部交通対策室 (高橋、鈴木、遠藤)

その他 : N P O 法人 O M U

社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会

復建調査設計株式会社 (竹葉、山根、金沢、三谷)

4 . 次 第 : 1 ) 開会

2 ) 会長あいさつ

3 ) 協議事項

(1) 過疎地有償運送の登録について (案件 1 )

運行主体 : N P O 法人 O M U、運行地域 : 大郷・御熊・内海中地域

(2) 福部循環バス旅客から収受する対価の変更について (案件 2 )

運行主体 : 社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会

4 ) 報告事項 : 「鳥取市地域公共交通総合連携計画策定調査業務」

・公共交通に関する市民アンケート結果及び公共交通の課題・問題点の報告

5 ) その他

## 5. 議 事

### 1) 過疎地有償運送の登録について(案件1)

〔NPO法人OMUが案件1について説明〕

- 澤委員 第1次、第2次実験運行での利用者の声と、今回利用者をどう見込んでいるのか教えてほしい。
- OMU 地域住民は300名程度で、何回かアンケート、聞き取りを行った。その結果から、利用者は多めにみて50名程度と想定している。  
第1次実験運行では、机上論でコスト・ダイヤを設定したため、利用者ゼロの運行日が多くあった。第2次実験運行では、聞き取り調査の結果をもとに改善したため利用者ゼロの運行は減少した。
- 澤委員 週3回の運行では利用しにくいと思う。毎日の運行が良いのではないか。
- OMU ボランティアによるドライバーの確保の問題があり、聞き取り調査をもとに週3回とした。ドライバーは16名であり、月1回の協力の人もある。ドライバーの年齢は、54~55歳から75歳であり、平均年齢は58~59歳である。
- 橋本委員 ドライバーの健康管理が重要である。健康診断を行うべきだと思うが、どう考えているのか。
- OMU 高齢のドライバーの方は便数を減らすことや、連絡網を使って健康管理をすることなどを考えている。
- 橋本委員 丸山町のトラック会館(自動車事故対策機構鳥取支所)で、ドライバーの適性診断を実施している。活用してみると良いと思う。
- 谷本会長 「松原での利用ない場合は、以降の運行は打ち切る」とはどういう意味か。  
事務局 集落間の利用は認めていないため、運行は打ち切るということである。
- 橋本委員 利用者は登録者だけか。  
OMU 登録者だけである。
- 橋本委員 他地域で登録者以外の人を乗せる例があったが、ルールを遵守して欲しい。  
事務局 過疎地有償運送については、県・市の運行補助があるが営業費用の1/2が上限であり、運賃も安いのでとても黒字にはならない。
- 谷本会長 個人的な感想になるが、競合する路線はなく、路線バスやJRにもメリットがあり互いに補完しあえると思う。既存の公共交通で全市をカバーすることは難しいなかで、大変興味深い取り組みだと思う。
- 澤委員 曜日を決めた運行で失敗した例(日南町)がある。毎日の運行でも、オンデマンドにすればコストの無駄がないと思うがどうか。
- 谷本会長 利用者にとってはオンデマンドが良いと思うが、供給側の問題がある。ゴミ収集や学校の授業など、曜日で決まっているものもあり、ある程度は慣れで対応できるのではないかと思う。
- 橋本委員 料金200円で継続できるのか。

OMU 近隣に同種の運行があり、あまり高い金額は設定できない。採算面ではガソリン代程度であるが、ボランティアとして継続していきたい。

谷本会長 この案件1に関して異議はないか。同意ということでよいか。

委員一同 異議なし

谷本会長 他の地区にも展開できれば良いと思う。また、市が協力して利用状況のモニタリングをして欲しい。

## 2) 福部循環バス旅客から収受する対価の変更について(案件2)

〔鳥取市社会福祉協議会(以下、市社協)が案件2について説明〕

小原委員 変更理由を教えて欲しい。

市社協 幼児については、利用者の増加を期待して料金を設定した。中学生・高校生の通学は自転車が多いが、冬場はバス利用が見込めそうなので定期券料金を設置した。大人もJRと連携した利用を期待して定期券料金を設定した。少しでも利用者が増えることを期待しての変更である。

小原委員 現在の幼児の料金はいくらか。また、幼児はどれくらい利用しているのか。

市社協 これまで幼児は規定がなかったため無料であった。幼児の利用は、秋に2~3回、遠足を兼ねたドライブで利用してもらった。通園での利用はない。

澤委員 高齢者料金の対象を75歳から70歳に引き下げるのは、利用者増を見込んでのことか。どの程度の利用者増を見込んでいるのか。

市社協 利用者増はねらったことだが、どれくらい増えるかはわからない。通院等で、できるだけ利用してもらいたいと考えている。

澤委員 鉄道への乗り継ぎ利用は多いのか。どのような利用が多いのか。

市社協 朝はJRへの乗り継ぎ利用が多い。その他、町内での買物、通院の利用が多い。百谷行きの臨時便の利用は、月2~3回程度である。

谷本会長 パスカードとは何か。その対象は福部町の人だけなのか。

市社協 70歳以上かどうかを確認するため、利用者の申請により協議会がカードを発行することを考えており、福部町の居住者を対象と考えている。

谷本会長 高齢者料金の対象を70歳に下げることによって、利用者増は見込めるのか。住民要望があったのか。

事務局 利用促進協議会で議論されたが、対象年齢を70歳以上に引き下げることで、利用者増につながればと考えてのことである。4月1日から変更したいと考えている。

谷本会長 利用者は当初の想定と比較してどうなのか。

市社協 かなり厳しい状況である。7~8月は学生が休みのため特に少ない。ガソリン高騰もあって、利用者が少ない時は小型車両を利用した。

橋本委員 事故やトラブルはないか。車両の定期検査は実施しているのか。

市社協 今のところ、事故やトラブルはない。車両の定期検査は、3ヶ月に1度実施している。

谷本会長 この案件2に関して異議はないか。同意ということでよいが。  
委員一同 異議なし

### 3) 鳥取市地域公共交通総合連携計画策定調査業務の報告について

〔市民アンケート結果について復建調査設計が説明。公共交通の問題・課題について事務局が説明〕

谷上委員 自分は佐治地域の集落に住んでおり、たまたまアンケートが配布された。回答率は少ないと思うが、回答するのが難しかったという意見が多かった。もう少しわかりやすくした方が良かったのではないかと思う。

事務局 多くの質問があったためだと思う。

谷本会長 アンケート調査にも限界がある。その辺はグループインタビューで補完していくのだと思う。

小原委員 逆に回答の仕方が難しい中でよくこれだけの数が集まり、このアンケート結果を評価している。

谷本会長 いくつか解説をしておきたい。通院、買物でバス利用者が多く、公共交通が頑張るべきだと思うが、バス利用者の意見を知るためには、バスを利用しない人を見ることが必要である。バス利用者は潜在的に、マイカー利用者と同じ行動を望んでいると思う。ただし、マイカー利用者は若者に偏っているため、そのことには配慮する必要がある。また、バス利用者があげる問題点に対して、例えば増便や運賃値下げは、方法としては考えられるが現実的には難しい。このため、NPOとの連携や時間待ちを緩和する工夫といった対策が重要である。それから、マイカーへの過度な依存を避けること。エコ通勤はどうか。バス・タクシー事業者が会社との交渉、コンサルティングできないかと思う。このように、公共交通についての不満の埋め方を考える必要がある。不満の出方を直視するのではなく、横から見て欲しい。

この会議のメンバーは生活交通の維持に賛同すると思うが、市民の1/4はバスを廃止してもよいと考えており、全市的には納得してもらえない。一方で「住民が率先して利用して赤字解消」と考える人もおり、この仕組みをどうするかが重要である。

「安心して暮らせる生活保障」、「自家用車依存からの脱却」、「地域との連携協調」、「持続的な交通サービス」といったことを目標として考えたい。メンバーには、地元を持ち帰って、何ができるか考えて欲しい。住民の目線から、建設的な議論をして欲しい。

田中委員 気高地域では、銀行などの主要施設を循環するバスのニーズが高く、現在の気高循環バスが導入されたが、本当に利便性が良いのかどうかを知りたい。報告できないか。

谷本会長 そのようなデータは随時提供できないか。  
事務局 対応したい。

田中委員 地域によって委員選出の方法が異なるが、自分の地域では不規則であり、来年にも替わる可能性がある。この会議がこのように重要な会議であることも知らなかった。資料は支所にも届いているのか。

事務局 資料は支所にも送付する。また、資料は市ホームページでも公表している。

谷本会長 適宜、狭い範囲でのアンケート集計もして欲しい。

#### 4) 今後のスケジュールについて

小原委員 次回会議が1月中旬に予定されているが、日程を早めに決めてほしい。

事務局 1 / 19 の週に開催したいと考えている。

谷本会長 事務局で早めに日程調整を行い、連絡して欲しい。

以 上

